

6. 帝京大学 緩和医療学講座

大澤 岳史* 有賀 悦子*

(*帝京大学 緩和医療学講座)

帝京大学におけるがん医療と緩和ケア

2007年のがん対策基本法制定後、翌年に帝京大学医学部附属病院は地域がん診療連携拠点病院に指定され、帝京がんセンターも発足した。地域のがん医療提供を行う医療機関の整備、連携協力体制の整備、がん患者に対する相談支援および情報提供を行っている。

緩和ケア領域では2007年に緩和ケアチームを再構築し、年2回の緩和ケア研修会、院内外医療者向けの緩和ケア勉強会を実施している。専門医の育成は重要な課題で、2009年に日本緩和医療学会認定研修施設の認定を受け、2013年4月には緩和医療学講座（以下、当講座）が開設された。2014年2月現在、専従3名（教授、講師、助教各1名）、兼任1名、大学院生2名の計6名が在籍している。

がんプロフェッショナル養成基盤推進プランにおける帝京大学緩和医療学講座の取り組み—当講座の立ち上げ

2012年4月、都市型がん医療連携を担う人材の実践的教育を目的に、杏林大学、駒澤大学、東京女子医科大学と共に大学院教育の一環として、文部科学省のプロジェクトであるがんプロフェッショナル養成基盤推進プランを開始した。

この中で、緩和医療領域は本学に独立した講座を立ち上げて担当することとなり、国民に信頼される緩和医療の実践的リーダーとして、施設を超えたコンサルテーション力と次世代を教育するスキルをもった緩和医療専門医の育成をミッションとしている。その達成に際して、求められる能力として、患者の苦痛の包括的評価、心理社会的・

スピリチュアルな問題への対処、家族のケアや支援、死にゆく過程の倫理的問題の理解と患者自律性の尊重、学際的チームマネジメント、経験した症例を吟味し、自らスキルアップしていく手段の獲得、教育指導スキル、研究報告の実施などを挙げている。

将来、この人材によって、がん診療連携拠点病院に質の高い緩和ケアチームが整備され、緩和医療地域コンサルテーション体制の開始や、休職医師らに対する再トレーニングにより活用できる人材が増加することで、緩和医療専門医や緩和ケアメディカルスタッフ教育が推進され、次世代の人材をさらに育成することにつながることを期待している。

当講座の教育の現状

① 卒前教育

学生講義には症候学的アプローチによる身体症状コントロールの基本、精神的ケア、心理社会的ケア、スピリチュアルケアが盛り込まれている。

2013年度の講義時間は、1年生 医学序論90分、3年生 腫瘍学講義90分、4年生 緩和医療学720分、6年生 総合講義90分が割り当てられている。5年生では、全員が緩和ケアチームで半日実習を行うとともに、2013年度より4年生講義においてコミュニケーション・ロールプレイを取り入れ、多職種チーム医療の中で求められるコミュニケーション・スキルを経験することを目指している。さらに、身体・精神症状にとどまらず終末期における倫理的問題を取り扱い、自律尊重の重要性に関して学習する方針である。

主科目	緩和医療学	副科目	有・無
-----	-------	-----	-----

指導教員	教授	准教授	講師	助教	客員教授・その他
	◎有賀 悦子		大澤 岳史 大野 智	黛 芽衣子	浅井 真理子 (非常勤講師) 赤穂 理絵 (非常勤講師)

教育目標	国民に信頼される緩和医療の実践的リーダーで、施設を超えたコンサルテーション力と次世代を教育するスキルを持った緩和医療専門医を育成することを目標とする。 症候学的臨床トレーニング、チーム運営演習を緩和ケアチーム下で、個別ニーズに対応させ、実施することで実践的臨床能力を身につける。臨床推論、多職種や医学生への指導を通し、教育技法を修得する。研究の立案から発表・報告を通し、人のQOLに関する学際的アプローチができる人材を育成する。
------	---

行動目標	①患者の苦痛を包括的に評価できる。 ②患者の痛みなどの身体的症状を評価し、緩和できる。 ③患者の精神・心理社会的・スピリチュアルな問題に対処できる。 ④患者の療養から死別後も、家族が対処できるようケア・支援できる。 ⑤死にゆく過程の倫理的問題を理解し、患者の自律性を尊重できる。 ⑥学際的チームをマネジメントできる。 ⑦多職種、医学部学生、研修医の指導ができる。 ⑧指導医のもと、研究を遂行し報告できる。
------	---

	タイトル	開催日時	担当教員
講義	緩和医療学特論Ⅰ	8/25, 9/4, 11, 18, 25 16:50~20:00	有賀, 大澤, 大野, 黛, 浅井, 赤穂
	緩和医療学特論Ⅱ	5/31, 6/1	有賀, 大澤, 大野, 黛, 赤穂
実習	コンサルテーション実習 (臨床推論・症候学実習)	月~土曜 9:00~	大澤, 大野, 黛
	外来緩和ケア実習	月・水・木曜 13:00~15:00	有賀, 大野・大澤
	地域医療実習	月~土曜 2日間以上	有賀, 関連施設
	緩和ケア病棟実習	月~土曜 2日間以上	有賀, 関連施設
演習	症候学的問題解決演習	別途指示	有賀, 大澤, 大野, 黛
	コミュニケーション演習	別途指示	浅井ほか
	BS ティーチングミーティング	月水金曜 10:30~12:00	有賀, 大澤, 大野, 黛
	BS ティーチングラウンド	木曜 9:00~10:30	有賀, 大澤, 大野, 黛
	院生グラウンドラウンド	年1回以上	指導:有賀, 担当:各院生持ち回り
	多職種カンファレンス	木曜 16:00~17:30	黛 (認定看護師, 薬剤師, MSW, リハビリテーション部, NST)
	他科との合同カンファレンス	月1回	大澤ほか
	ジャーナルクラブ	随時 (60分)	大野ほか
	リサーチミーティング	随時 (60分)	大野ほか

学習方略	①学習開始時に、履修計画を担当教員と作成し、それに基づき学習を進める。 ②講義は、参加型で進められ、討論、小グループワーク、症例提示などを通して履修する。 ③実習：症候学的手法による病態評価と治療方法をベッドサイドにおいて修得する。プレゼンテーショントレーニング、アテンディングによるBS ティーチングラウンド、多職種を含むPeer-reviewを併行する。記録はポートフォリオ形式で自主学習し、担当医との対面指導を定期的に行い、専門医申請時に症例として提出する。 ④院生グラウンドラウンド：各院生が自分で発表したいことについて、1時間レクチャーを実施する。 ⑤外来：On site teaching ⑥関連施設と提携し、緩和ケアチーム、緩和ケア病棟、在宅緩和医療（在宅療養支援診療所）などでの研修を行い、多形態緩和医療およびチーム医療を履修する。 ⑦ジャーナルクラブは、インターネットを用い、クラウドによる文献、作成資料を提出し、発表・討論する。Oxford Textbook of Palliative Medicine 1)、臨床症例に関する英語文献を中心に読む。4年間で1)は完読することを目指す。
------	---

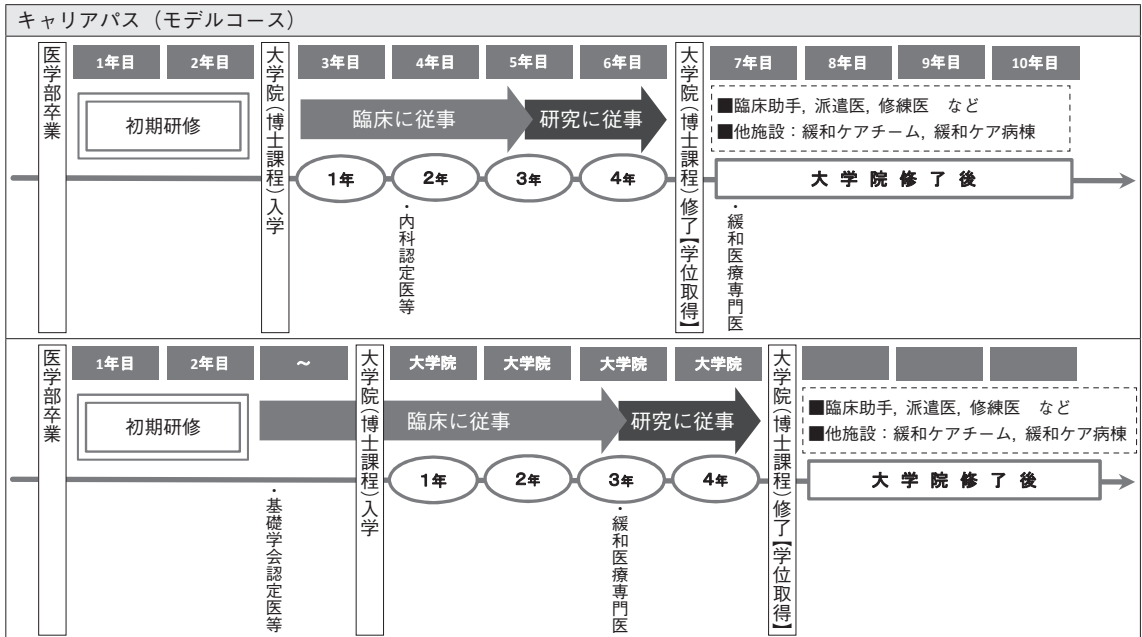
事前準備	Oxford Textbook of Palliative Medicine の講義該当箇所、ユネスコ生命倫理学必修、その他指定された教材を事前に読んでおくこと。
------	---

評価	受講態度（課題への取り組み方、プレゼンテーション、討論など）、チーム協調性、臨床能力を総合的に評価する。多職種評価、関連施設評価も重視する。ジャーナルクラブ（論文読解発表）4回以上担当、グラウンドラウンド11回、学会発表1回以上。
----	---

図1 当講座大学院シラバス

I. 緩和ケアにおける専門医教育の現状と課題

<p>関連科目</p> <p>副科目：がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン指定コースおよび帝京大学大学院医学研究科副科目の中から、担当教員と話し合い、関連領域を1科目以上、3カ月コースまたは講義・演習コースにて履修する。 がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン指定コースの選択も可能である。</p> <p>(帝京) がんを診る総合医養成コース 臨床研究グループリーダー養成コース がん専門的手技実地体験コース 基本的緩和ケア医療人養成コース</p> <p>(女子医大) 地域医療を担うがん治療専門医復職支援コース</p> <p>(杏林) 臨床試験コーディネーター養成コース</p> <p>共通科目：がんプロフェッショナル養成基盤推進プラングループ大学指定共通科目から選択。</p> <p>関連する専門医資格</p> <p>1) 臨床研修修了および本コース4年修了(卒業最短6年)にて、日本緩和医療学会専門医申請可能 2) 臨床研修修了を含む卒業5年を経て、本コースのうち専門的臨床研修2年間(卒業最短7年)にて、日本緩和医療学会専門医申請可能</p>
--



<p>※社会人卒のキャリアパスについては、各講座にお問い合わせください。</p> <p>〈副科目〉</p>
<p>対象</p> <p>1) 臨床経験を有し実践的に基本的な緩和ケアを学びたい医療人(医師、看護師、薬剤師、ソーシャルワーカー、ケアマネジャー、他) 2) 緩和医療学以外の分野を専攻する院生(医師)、後期研修医</p>
<p>履修期間と単位</p> <p>指導医のもと緩和ケアチーム・外来における臨床履修3カ月以上1年以内で8単位、講義・演習15時間の履修で1単位とする。</p>
<p>一般教育目標</p> <p>がん患者・家族に切れ目のないがん緩和ケアを提供するために、がん治療病院や地域の医療機関において、がん患者のQOL維持・向上の視点をもった基本的な緩和ケアを実践できる地域総合医療を担う医療人を育成する。</p>
<p>行動目標</p> <p>①福祉、教育、行政を含む学際的チームによる医療ケア、構成員の役割、連携について説明できる。 ②がん患者の身体・精神的症状、心理社会的・スピリチュアルな問題に対して、包括的評価を行い、検査結果を吟味、基本的な緩和的対処が立案できる。 ③自己の限界を提示し、専門家へ依頼し問題解決に近づくことができる。</p>
<p>学習方略</p> <p>1) 3か月緩和ケアチーム実習コース 指定された時間数、学会認定指導医のもと、緩和ケア研修に担当医として従事、BSティーチングラウンドトレーニングを受ける。主科目「緩和医療学」の講義/実習/演習を履修し、合わせて8単位が取得できる。 2) 講義・演習コース 他科とのカンファレンス、BSティーチングラウンド、多職種カンファレンス各2回以上に参加して1単位を取得できる。</p>
<p>到達度と評価</p> <p>3カ月の緩和ケア実習コースでは、評価表(自己および担当教員評価)の提出、担当する学会認定指導医と教員による実習態度で評価される。講義・演習コースでは出席状況と発言状況により教員が評価する。</p>

② 大学院（専門的緩和医療医師養成コース）

緩和医療学の大学院シラバスを図1に示す。

大学院コースは、一般コースと、地域で働きながら学位取得を目指す社会人コースとに分類される。コース開始1年目の現在、2名の学生が所属している。カリキュラムは担当教員と相談のうえで計画し、講義またはe-learningを履修しつつ、リサーチミーティングやジャーナルクラブを通して緩和医療分野での研究論文をはじめとする専門教育で学位取得を目指す。臨床面では、症候学的臨床トレーニングや緩和ケアチーム運営、ポートフォリオ、臨床推論を学ぶ。希望に応じて院外の緩和ケア病棟や在宅医療なども経験可能となっている。緩和医療学におけるキャリアパスも図1に示されている。

2013年度は8回シリーズの公開講義としており、第3回目の時点で院内外から延べ63名の聴講者となっている。勤務などですべて受講することが難しい場合、e-learningで受講できる。

また、学内他専門コースの大学院生で、がん治療分野のコースの学生（腫瘍内科、泌尿器科、消化器内科、微生物病態生理）が緩和医療分野の講義を選択し、がんプログループ内での学生や教員も交流している。

③ インテンシブコース（基本的緩和ケア医療人養成コース）

インテンシブコースは、短期間でスキルアップを目指すコースである。希望の日程を選択し、10日間（80時間）行うアドバンスコースと、1日もしくは2日で集中して行う基礎コースに分かれる。アドバンスコースは、年度をまたがない1年間の内に10日間を自由に選択可能なコースであるが、臨床現場に入ることから、曜日を限定した実習設定としている。

このコースは、地域の多職種医療者を対象にしており、大学内の臨床実習・演習、カンファレンスを通して、地域に応用する基本的緩和ケアを実践できる医療人の養成を目的としている。学際的チームによる医療ケア、構成員の役割や連携について説明できること、がん患者の苦痛の包括的評価を行い、検査結果を吟味し、基本的緩和ケア対



図2 がんを知ろう！ 帝京サマースクール

処が立案できること、自己の限界を提示し、専門家へ依頼することで問題解決に近づくことができることなどを目標としている。がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン開始初年度、アドバンスコース（80時間）1名、基礎コース（1～2日）4名受講、2年目の2013年度は、アドバンスコースが9名、基礎コースが7名となっている（2014年2月1日現在）。

また、このインテンシブコースは、当学薬学部大学院の単位認定がなされており、2013年度は1名受講した。さらに、2014年度には看護学科における大学院の単位認定も検討されている。このように、直接本事業に参画していないプログラムにおいて、各職種の専門教育に活用されていることも特徴である。

さらに、地域医療への貢献として、活発なセミナー開催を行っている。可能なかぎりシリーズ化し、地域医療者が多忙な中でも継続的に学ぶ場をもってもらえるよう設定している。

④ 市民啓発活動

がん医療・緩和医療は、十分国民へ浸透しているとはいいがたいのが現状で、本事業においても、地域住民や市民に対して、啓発活動を実施していることを1つの柱として捉えている。

2012年度は乳がんをテーマとした市民公開講座を開講し、223名の参加者を得た。また、2013年の夏休み期間に地域近隣小学生5、6年生39名を対象に「がんを知ろう！ 帝京サマースクール」を開催し、たいへん好評をいただいた（図2）。

2014年3月までには、緩和医療をテーマとした一般市民公開講座や大学生と生きることを討論する「well-beingを考える」というワークショップ型サイエンスカフェを予定している。

含めた帝京大学における緩和ケア教育について紹介した。講座が開設されたばかりであるが、今後さらに教育・研究体制を充実させ、当講座から地域やわが国の緩和医療を牽引していくような人材を育成したいと考えている。

おわりに

がんプロフェッショナル養成基盤推進プランを